

第 39 回世界遺産委員会決議に係る保全状況報告の方向性について(案)

－ 河川工作物関連 －

要請事項	関連事項及び記載内容の方向性
<p>○ルシャ川の3つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること</p> <p>・表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝分れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去すること</p> <p>○締約国及びIUCNのSSCサケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これら課題に関する助言を行うIUCNの諮問ミッションを招聘する可能性を検討すること</p> <p>○本資産の保全状況や上記の実施状況について、1ページの要約を含む最新の報告書を、世界遺産センターに2016年12月1日までに提出すること</p>	<p>①ルシャ川ダムの更なる改良の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムの必要性（※設置目的や経緯など） <li style="padding-left: 2em;"><u>別添でルシャ川ダムの詳細を記載する</u> ・前回の報告以降、これまでの取組み ・ダム改良の課題 ・ダム改良の方法 ・改良に向けた水理模型実験の結果 ・中長期的なダム改良など取扱いの考え方 ・モニタリングの継続 <p>②橋と道路の取扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撤去等の進め方 <li style="padding-left: 2em;">スケジュール、通行の確保、など ・通行保持のための検討 <li style="padding-left: 2em;">産卵環境を改善させる取組み <p>○コンセンサスと諮問ミッションの招聘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセンサスを見出すための方策 ・諮問ミッション招聘の可能性の検討 <p><u>※別添資料</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ルシャ川ダムの設置目的、経緯 ダムの必要性など これまでの改良の取組み モニタリングなど産卵環境

○第39回世界遺産委員会 知床決議に係る今後の対応スケジュールについて(未定稿)

月	河川工作物AP	海域WG	科学委員会	地元関係	備考
2	<p>H27 第2回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応方針の検討 ダム改良 橋と道路の取扱 今後のスケジュール 	<p>H27 第2回会議</p>	<p>H27 第2回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応方針の概要報告 今後のスケジュール 	<p>* 地元対応</p>	
3					<p>地域連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応方針の概要報告
4					
5					
6	<p>ルシャ川の改良 検討会(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム改良の検討 橋と道路の取扱い検討 今後の対応 保全状況報告(案)の対応 				<p>ルシャ川の対応方向等の説明・意見交換など</p>
7		<p>H28 第1回会議</p>	<p>H28 第1回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全状況報告(案)の概要説明 		
8	<p>H28 第1回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ルシャ川の改良方向性 保全状況報告(案)の説明 				
9				<p>地域連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全状況報告(案)の概要説明 	下旬: 保全状況報告 和文完成
10					
11					<p>上旬: 保全状況報告 英文完成 中旬: 外務省に提出 下旬: ユネスコに提出</p>
12					世界遺産センター提出 べ切 2016/12/1
1	<p>H28 第2回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全状況報告の提出報告 				
2		<p>H28 第2回会議</p>	<p>H28 第2回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全状況報告の提出報告 		
3				<p>地域連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 保全状況報告の提出報告 	

2015 第 39 回世界遺産委員会 知床に関する決議について

決定：39 COM 7B.13 (仮訳)

世界遺産委員会は、

1. 作業文書WHC-15/39.COM/7Bを検討し、
2. 第 36 回遺産委員会における決定 36COM 7B.12 を想起し、
3. 日本海や資産内におけるトドの健全な個体群を維持するための締約国の努力に留意し (notes)、資産内及びより広域な海上景観において安定～増加するトドの個体数を維持するために、採捕上限頭数を定期的に点検・調節するよう、強く勧める (urges)。
4. 報告されている河川工作物の改良がもたらした好影響について賞賛を持って留意する (notes with appreciation) 一方で、2012 年の第 36 回会合における世界遺産委員会の要請通りに、ルシヤ川のダムについて追加的な改善が行われていないことについて、特にこれらのダムが下流側の河床やサケ科魚類の産卵環境の利用可能性に負の影響を与えているという締約国自身が留意している懸念に照らして、懸念をもって留意する (notes with concern)。
5. 自然状態のサケ類の遡上と産卵は、「海域と陸域の生態系の相互作用の顕著な例」であり、本資産に不可欠であると考え。また、2012 年にルシヤ川河口の孵化場が撤去されたことにより、3 つのダムによる災害リスク削減に係る利益よりも、本資産の顕著な普遍的価値に及ぼす影響の方が大きくなっていると考える (considers)。
6. 更に締約国に対し、ルシヤ川の 3 つのダムの影響を十分に緩和するため、地方自治体及び地域住民と緊密に協議しつつ、これらのダムについて完全撤去という選択肢の検討を含む更なる改善を継続すること、また、水面下のコンクリートの除去という選択肢も検討すること、更に、表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝別れや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善させるために、旧孵化場に通じる道路や橋を完全に廃止・撤去することを、強く勧める (urges)。
7. 締約国及び IUCN の SSC サケ科魚類専門家グループに対し、現在得られる最善の科学的知見に基づき、最も適切かつ実践可能な解決策に関するコンセンサスを見出すこと、及び、これらの課題に関する助言を行う IUCN の諮問ミッションを招聘する可能性を検討することを勧告する (recommends)。
8. また、締約国に対し、2017 年の第 41 回会合での世界遺産委員会による検討のために、世界遺産センターに 2016 年 12 月 1 日までに、本資産の保全状況や上記の実施状況について、1 ページの要約を含む最新の報告書を提出するよう要請する (requests)。

13. Shiretoko (Japan) (N 1193)

Decision: 39 COM 7B.13

The World Heritage Committee,

1. Having examined Document WHC-15/39.COM/7B,
2. Recalling Decision **36 COM 7B.12**, adopted at its 36th session (Saint-Petersburg, 2012),
3. Notes the State Party's efforts to maintain a healthy population of Steller's Sea Lion in the Sea of Japan and in the property, and urges the State Party to ensure that catch quotas are regularly reviewed and adjusted to maintain a stable to growing population of sea lions in the property, and in the wider seascape;
4. Notes with appreciation the reported positive impacts from the modification of river structures, however, notes with concern that no further modifications to the dams on the Rurua river have taken place as requested by the Committee at its 36th session in 2012 (Decision **36 COM 7B.12**), in particular in light of the State Party's noted concerns about negative impacts from these dams on the downstream river bed and the availability of salmonid spawning habitat;
5. Considers that a natural salmonid migration and spawning behaviour are vital for the property to serve as an "outstanding example of the interaction of marine and terrestrial ecosystems", and also considers that, with the removal of the salmon and trout hatchery at the mouth of the Rurua river in 2012, the benefits of the three check dams for disaster risk reduction are outweighed by their impacts on the Outstanding Universal Value (OUV) of the property;
6. Also urges the State Party to continue further modifications of these dams, including consideration of the option to fully remove them, in close consultation with the local authority and communities, in order to fully mitigate the impacts of the three dams on the Rurua river, to also consider the option of removing the concrete below surface level, and to fully decommission the road and bridge that lead to the former hatchery, in order to restore normal flow of surface and ground water, and to promote river braiding and meandering to improve salmonid spawning habitat;
7. Recommends the State Party and the IUCN SSC Salmonid Specialist Group to seek a consensus based on best available science regarding the most appropriate and practicable solution and to consider the possibility of inviting an IUCN Advisory Mission to the property to provide advice on these matters;
8. Also requests the State Party to submit to the World Heritage Centre, by **1 December 2016**, an updated report, including a 1-page executive summary, on the state of conservation of the property and the implementation of the above, for examination by the World Heritage Committee at its 41st session in 2017.